<table>
<tr><td>授業科目名</td><td>演技論</td><td rowspan="5">担当教員</td><td rowspan="5">山内　健司</td></tr>
<tr><td>必修の区分</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>単位数</td><td>2 単位</td></tr>
<tr><td>授業の方法</td><td>講義</td></tr>
<tr><td>開講年次</td><td>2 年 第 3 クォーター</td></tr>
<tr><td>講義内容</td><td colspan="3">演技をめぐる言葉と向き合う。創作現場で、表現者個々のうちに、どんな言葉があるのかを知り、それらの言葉が、それぞれの歴史や文化をふまえた豊かさをもつ、多様なものであることを知る。表現者のうちにある言葉、観客・批評家・研究者によって語られる言葉、異ジャンルの舞台で語られる言葉、異文化の舞台で語られる言葉、過去の時代に語られた言葉、などに触れ、それらの言葉に触発され、自身の言葉を鍛え、敬意をもって他者と関わっていく第一歩とする。対話における他者への敬意を、演技論の視座から学ぶ。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="3">1. 演技をめぐる言葉の、豊かさと多様性を述べることができる。
2. 演技論について、他者と対話することができる。
3. 演技をめぐる言葉を通して、他者に敬意をもつことができる。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="3">第 1 回　1 演技の実際「演技論はどこに位置するか」
1-1　クリエーションの進行
1-2　俳優の準備について
1-3　俳優のアップについて
1-4　演技のレイヤーについて

第 2 回 2 演技術について
2-1　演技についての言葉（書物で・稽古場で）
2-2　日本の演技態史
2-3　海外の演技の学び
2-4　日本の演技の学び 日本の演技を学ぶ場

第 3 回　3 俳優は台本を受け取ってから何をするのか？-1
3-1 問いを立てる
3-2 セリフを覚える

第 4 回　3 俳優は台本を受け取ってから何をするのか？-2
3-3 事の大きさをつくる
3-4 出来事をおこす

第 5 回　4 演技の文法_スタニスラフスキー-1</td></tr>
</table>

	4-1 身体的行動-1 第 6 回　4 演技の文法_スタニスラフスキー-2 4-2 身体的行動-2 動詞 第 7 回　4 演技の文法_スタニスラフスキー-3 4-3 与えられた状況 第 8 回　5 現代口語演劇の取り組み-1 5-1 現代口語演劇について 第 9 回　6 現代口語演劇の取り組み-2 5-2 演技論からみた現代口語演劇 第 10 回　6 現代口語演劇の取り組み-3 5-2 演技論からみた現代口語演劇-2 第 11 回　6 コンテンポラリー演劇の演技論-1 6-1 チェルフィッチュ 第 12 回　コンテンポラリー演劇の演技論-2 6-2 現在の演技論
事前･事後学習	・講義中で部分的に取り扱う戯曲、演劇論、演技論のテキストについては、その全体像にふれるよう努めること
テキスト	各講義中に配布する。
参考文献	・各回の実習において参考資料を配付する。 ・参考文献等を適宜紹介する。
成績評価の 基 準	・授業時間内での発言・姿勢（50%） ・レポート（50%）
履修上の注意履修要件	
実践的教育	芸術文化分野の実務経験を持つ教員が、その実務経験を生かして教授することから、実践的教育に該当する。
備考欄	定員超過の場合は、抽選などで選考する場合があります。